

五重塔

この塔は現存する木造の五重塔としては世界最古である。釈迦の舎利を納めるために、飛鳥時代（593～710年）に建立された。釈迦の遺骨や遺灰は、今から約2500年前のその死の際に、信者たちに分け与えられた。釈迦の舎利が塔の基壇の下3mに収められている。塔の基部には、仏教の有名な描写である粘土の塑像群が収められている。北側では、釈迦牟尼仏陀が涅槃に入ろうとしており、弟子たちがその死を悼んでいる。

塔の高さ約100フィートの心柱は、594年に伐採されたヒノキの木からつくられており、塔の5層すべてを貫いている。柔軟性の高い木組みの継手を用いることによって、日本では無数に発生する地震のエネルギーを吸収することができる。この革新的な技術は、現代においても世界中の建築家の研究の対象となっている。

塔の最上部の屋根の大鎌に注目されたい。雷は、かつては天界の魔物だと考えられていた。当時の人たちは、塔や高い建物の上に刃物を取り付けて、魔物が雲から落ちて来ないように威嚇したとも言い伝えられている。この鎌は他の寺院には見られず、法隆寺の七不思議の一つとされている。